

2023年10月 旅行取扱高状況報告

< 日本国内における旅行区分別 >

(単位：千円)

区 分	取 扱 高	前年同月取扱高	前年同月比	2019年同月取扱高	2019年同月比
海外旅行	21,568,525	6,862,750	314.3%	32,249,039	66.9%
国内旅行	5,362,168	4,821,705	111.2%	4,712,368	113.8%
訪日旅行	1,098,715	131,403	836.1%	1,899,571	57.8%
合 計	28,029,410	11,815,859	237.4%	38,860,979	72.1%

※株式会社エイチ・アイ・エス及びグループ5社（株式会社オリオンツアー、株式会社クオリタ、株式会社クルーズプラネット、株式会社ジャパンホリデーtravel、株式会社エイチ・アイ・エス沖縄）の社内取引を相殺した旧会計基準の取扱高となります。また、コロナ以前と比較するため、2019年同月比を記載しております。

■ 海外旅行

前月より引き続き「決算 SALE」を展開し、実際の秋旅や年末年始の集客に努めました。方面別では、韓国が2019年同月比で約2倍の取扱高となり、コロナ禍以前を大幅に上回りました。主な要因として、K-POPのファンミーティングが現地で多数実施されたこともあり、20代から60代といった幅広い年代の女性による出発が増加しました。その他、グアムや中国が2019年同月比で3割弱と、回復に時間を要している渡航先もみられるものの、オセアニア、欧州、中近東、アジア方面では、2019年同月比で7割台の回復となりました。

以上の結果、海外旅行取扱高は、前年同月比314.3%、2019年同月比66.9%の215億6,852万円となりました。

< 海外旅行取扱高 方面別・商品別・チャンネル別データ >

方面別	2019年同月比
アジア	72.6%
オセアニア・南太平洋	78.0%
ハワイ・ミクロネシア	48.1%
欧州・中近東・アフリカ	74.6%
北米・中南米	69.3%

商品別	2019年同月比
手配旅行	70.8%
企画旅行	59.8%

チャンネル別	2019年同月比
店舗	55.7%
オンライン	86.5%

■ 国内旅行

昨年の10月は、全国旅行支援が開始された月ということもあり、2019年同月比を上回っておりましたが、今年は更に前年同月比を超えており、過去最高の10月の取扱高となりました。主な要因としては、取扱高を牽引する沖縄本島と北海道において、長めの滞在がお得な特典や、グルメ・観光・体験といったテーマ別の滞在プランを展開したことで、単価増につながり、取扱高が増加しました。また、添乗員同行ツアーの強化として、3年半の歳月をかけて改修が完了した世界遺産・厳島神社と広島、出雲大社などを周遊する王道のコースが、シニア層に好評を得ており、中四国方面が高い伸びをみせました。

以上の結果、国内旅行取扱高は、前年同月比111.2%、2019年同月比113.8%の48億2,170万円となりました。

■ 訪日旅行

HISの海外現地法人や欧米の旅行会社からのインセンティブ団体旅行が取扱高を牽引しました。FITにおいては、秋の行楽シーズンの需要獲得を図るべく、自社バスツアーの多言語対応や新コースの拡充が奏功し、10月の催行本数は過去最高となりました。特に富士山を絡めたコースの人气が高く、富士山&箱根コースは欧米のお客様から、富士山&フルーツ狩りやアウトレットに立ち寄るツアーは東アジア及び東南アジアからのお客様を中心に、連日満席に近いご参加をいただきました。中国マーケットの再開に関しては、引き続き回復に時間を要しております。

以上の結果、訪日旅行取扱高は、前年同月比836.1%、2019年同月比57.8%の10億9,871万円となりました。

2023年10月の日本国内における旅行取扱高合計は、前年同月比237.4%、2019年同月72.1%の280億2,941万円となりました。

2023年10月 海外における旅行取扱高状況報告

< 海外における旅行区分別 >

(単位：千円)

区 分	取 扱 高	前年同月取扱高	前年度同月比	2019年度同月取扱高	2019年度同月比
インバウンド	10,088,449	4,735,650	213.0%	15,433,250	65.4%
アウトバウンド	16,470,901	13,868,305	118.8%	6,643,438	247.9%
合 計	26,559,351	18,603,956	142.8%	22,076,688	120.3%

※エイチ・アイ・エス海外現地法人 35 社と海外子会社 4 ブランド (MIKI グループ、Merit Travel、Jonview Canada、Red Label Vacations) の社内取引相殺前の取扱高となります。また、2019 年度は旧会計基準、2023 年のツアー商品は「進行日」、手配旅行は「手配完了日」に計上基準を変更した参考値となります。また、コロナ以前と比較をするため、2019 年度同月比を記載しております。なお、為替換算レートにつきましては、期中平均レートにて算出しております。

※海外におけるインバウンドとは、各海外拠点における旅行受客業務の取扱高。海外におけるアウトバウンドとは、各海外拠点における旅行送客業務の取扱高。※海外における旅行事業は 7 月期決算のため、2019 年度は 2018 年 10 月の業績を比較対象としております。

■ 海外インバウンド

夏のピークシーズンが終わり、個人レジャー旅行のオフシーズンを迎える地域が多い中、ハワイ法人では、受客数においては本格的な回復には至っていないものの、物価上昇による単価上昇もあり、2019 年度同月比 64.2%と取扱高を牽引しました。韓国法人では、受客数の回復により 2019 年度同月比 106%と好調に推移しました。また、グアム法人やシンガポール法人をはじめとする東南アジア地域において、修学旅行や団体旅行を取り込み、回復の動きがみられました。

カナダ法人「HIS Canada Travel」のインバウンドブランド「Jonview Canada (※1)」では、メインターゲット層であるヨーロッパ市場の顧客を着実に獲得し、2019 年度同月比 110.8%と好調に推移しました。

以上の結果、海外インバウンド取扱高は、前年同月比 213.0%、2019 年度同月比 65.4%の 100 億 8,844 万円となりました。

■ 海外アウトバウンド

HIS 海外現地法人においてはシンガポール法人が、日本の紅葉の時期に合わせた個人旅行の需要を取り込み、2019 年度同月比 82.9%まで回復。またスペイン法人においては、日本行きグループツアーの販売強化を図り、2019 年度同月比 179.6%と好調な伸びをみせました。

カナダ法人「HIS Canada Travel」のアウトバウンドブランド「Red Label Vacations (※2)」では、中東情勢の影響で市場が買い控えの傾向にある中、人気デスティネーションであるカリブ方面の需要を確実に取り込み、前年同月比 117.4%と堅調な伸びをみせ、取扱高を牽引しました。(2019 年度同月比は連結対象外)

以上の結果、海外アウトバウンド取扱高は、前年同月比 118.8%、2019 年度同月比 247.9%の 164 億 7,090 万円となりました。

2023 年 10 月の海外の旅行事業取扱高合計は、前年同月比 142.8%、2019 年度同月比 120.3%の 265 億 5,935 万円となりました。

※1) 「Jonview Canada」(連結対象：2017 年 12 月～)

カナダを代表するツアーオペレーターとして、欧州からの受客を中心にインバウンド事業を展開。世界中の旅行業向けの商品やサービスを多数提供し、30 年以上にわたり事業展開する中で、カナダ国内の 2,000 以上を超えるサプライヤーと提携。8 月より HIS グループカナダ法人「HIS Canada Travel」として合併。

※2) 「Red Label Vacations」(連結対象：2019 年 3 月～)

カナダを拠点にオンライン旅行販売とホールセラー事業を通じてアウトバウンド事業を展開。オンライン販売のブランド (redtag.ca と itravel2000.com) を通じて、世界中のパッケージツアー、フライト、ホテル、周遊など、多様な旅行商品を提供。ホールセラーとしては、カナダの旅行代理店にあらゆる旅行商材を提供。8 月より HIS グループカナダ法人「HIS Canada Travel」として合併。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社エイチ・アイ・エス I R室：050-1746-4188
広報室：050-1746-4177